



慶應義塾大学ビジネス・スクール

川越胃腸病院

5

病院は、患者に健康や命といった無形の価値を提供する。財の性質として、医療は経済産業省の第3次産業活動指数^[1]の対象範囲であり、サービス業として分類される^[2]。近年、患者中心であることを掲げ、患者を「患者様」と呼び、待ち時間を短縮し、院内環境を工夫するなどといった活動に取り組む病院が増加している。しかし、実際にそれが患者のニーズに沿っているのかに
10
はかかわらず、申し訳程度に患者中心の理念を飾るだけの病院も少なくない。

川越胃腸病院は1969年、埼玉県で唯一の消化器科専門病院として創設された^[3]。消化器系疾患とは、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸や肝胆膵疾患のことで具体的には、食道がん、胃がん、大腸がん、胆石症や肝炎なども含まれる。検査は、CT検査、超音波検査、内視鏡検査などが挙げられる。これら検査法の発達によって、胃がんや大腸がんなどは早期に発見される確率が高く
15
なっている。また、ポリープは悪性化するものもあり定期的な検査や経過観察が必要とされる。川越市内には、川越駅を中心に消化器科を標榜する病院が10件^[4]あり、全て200床未満の中小病院である(図1)。20床～99床の小規模病院は5件で、うち50床未満の病院は川越胃腸病院の1件、100床未満の病院は4件である。100床以上の中規模病院は5件で、うち150床未満が3件、200床未満が2件である^[5]。消化器単科の病院は川越胃腸病院のみである。2007年度の診療科
20
目別施設数では、消化器科を標榜する病院数は4244件と全体の約55%であり、内科、整形外科・リハビリテーション科(同数)、外科に続き多く、1999年時の約50%から緩やかに上昇している。また、病院の消化器系疾患の患者数は減少傾向にある。

[1] 経済産業省が第3次産業に属する業種の生産活動を総合的に捉えるため行っている統計調査である。

[2] 日本標準産業分類。2002年、サービス内容の多様化からサービス業は分類され「医療・福祉」は大分類として
25
独立した。

[3] 医療法では20床以上の入院施設を有するものを病院、無床もしくは19床以下は診療所と区分される。

[4] 療養型病床群を有する病院はうち2施設。

[5] 埼玉県医療機能情報提供システム(<http://www.iryo-kensaku.jp/saitama/Default.aspx>)2010年1月10日現在、参照。

本ケースは慶應義塾大学大学院経営管理研究科井上哲浩教授指導の下、同大学博士課程大野幸子が作成した。経営管理に関する稚拙を記述したものではない。ケースの作成に当たって多大なご協力をいただいた望月智行院長ほか川越胃腸病院スタッフの方々と井上哲浩教授に感謝したい。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾
30
大学ビジネス・スクール(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 大野幸子 (2010年1月作成)